

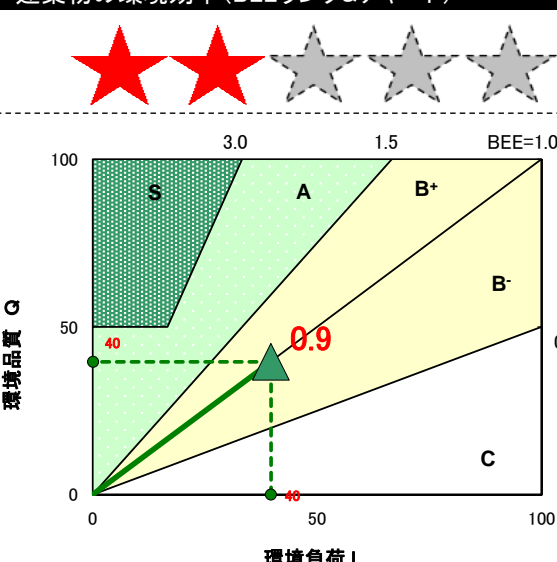
CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要		■ 外観	
建物名称	JAやつしろ ミノマト選果施設	階数	地上1F
建設地	熊本県八代市植柳下町字本田2209	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	28 人
気候区分	7地域	年間使用時間	5,040 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年9月 竣工	評価の実施日	2019年9月11日
敷地面積	6,426 m ²	作成者	柳田
建築面積	2,633 m ²	確認日	2019年9月16日
延床面積	2,633 m ²	確認者	園田



1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



環境品質 Q

環境負荷 L

BEE = 0.9

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$


■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	★★★★★★
30%超60%以下	★★★★★
60%超80%以下	★★★★
80%超100%以下	★★★
100%超	★

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)




排出率

83%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

67

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点






71.7

62.5

52.5

75.0

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	JAやつしろ ミニトマト選果施設	階数	地上1F
建設地	熊本県八代市植柳下町字本田2209	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	28 人
地域区分	7地域	年間使用時間	5,040 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年9月 竣工	評価の実施日	2019年9月11日
敷地面積	6,426 m ²	作成者	柳田
建築面積	2,633 m ²	確認日	2019年9月16日
延床面積	2,633 m ²	確認者	園田



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q1 室内環境 (スコア: 2.8)

Q2 サービス性能 (スコア: 2.9)

Q3 室外環境(敷地内) (スコア: 2.1)

LR1 エネルギー (スコア: 3.7)

LR2 資源・マテリアル (スコア: 3.0)

LR3 敷地外環境 (スコア: 3.2)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境 (Q1のスコア= 2.8)

音環境	2.4
温熱環境	2.0
光・視環境	3.3
空気質環境	3.7

Q2 サービス性能 (Q2のスコア= 2.9)

機能性	2.5
耐用性	3.1
対応性	3.4

Q3 室外環境(敷地内) (Q3のスコア= 2.1)

生物環境	1.0
まちなみ	3.0
地域性・	2.0

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー (LR1のスコア= 3.7)

建物外皮の	N.A.
自然エネ	3.0
設備システ	4.4
効率的	2.5

LR2 資源・マテリアル (LR2のスコア= 3.0)

水資源	3.0
非再生材料の	2.8
汚染物質	3.7

LR3 敷地外環境 (LR3のスコア= 3.2)

地球温暖化	3.6
地域環境	3.0
周辺環境	3.2

3 設計上の配慮事項

重点事項総合評価

評価点 = 67

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 71.7	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 75.0
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 52.5	重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 75.0

重点事項の評価(レーダーチャート)

温室効果ガス排出量削減の推進 (スコア: 71.7)

安全安心で暮らしやすい社会の実現 (スコア: 75.0)

県の地域資源の有効活用と保全 (スコア: 52.5)

循環型社会の実現 (スコア: 75.0)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

道路面からの圧迫感に配慮し、建物位置をできるだけ敷地の奥へ配置した。また、周囲との景観の調和を生み出すために敷地周囲に緑地を配置した。

Q1 室内環境

F☆☆☆☆建材を使用。

Q2 サービス性能

階高にゆとりをもたせ、建物自由度を高めた。

Q3 室外環境（敷地内）

敷地内一部に緑地を設け、暑熱環境に配慮した。

LR1 エネルギー

一部に熱線反射ガラスを採用し、遮熱性を高めた。

LR2 資源・マテリアル

断熱材は、全てノンフロン。

LR3 敷地外環境

適切な数の駐車スペースを計画し、出入り口付近での車両の軌跡検討を行い、周辺の交通負荷軽減に配慮した、

その他

CASBEE-建築(新築)2016年版
JAやつしろミニトマト選果施設

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										2.5
Q1 室内環境							0.30			2.8
1 音環境						2.4	0.15			2.4
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40			
1.2 遮音						1.0	0.40			
1 開口部遮音性能						1.0	0.60			
2 界壁遮音性能						1.0	0.40			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音		天井:吸音天井材 床:カーペット				4.0	0.20			
2 温熱環境						2.0	0.35			2.0
2.1 室温制御						2.2	0.50			
1 室温						3.0	0.38			
2 外皮性能						3.0	0.25			
3 ゾーン別制御性						1.0	0.38			
2.2 湿度制御						3.0	0.20			
2.3 空調方式						1.0	0.30			
3 光・視環境						3.3	0.25			3.3
3.1 昼光利用						4.2	0.30			
1 昼光率		昼光率5.9%				5.0	0.60			
2 方位別開口										
3 昼光利用設備						3.0	0.40			
3.2 グレア対策						3.0	0.30			
1 昼光制御						3.0	1.00			
3.3 照度						3.0	0.15			
3.4 照明制御						3.0	0.25			
4 空気質環境						3.7	0.25			3.7
4.1 発生源対策						4.0	0.50			
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆				4.0	1.00			
4.2 換気						3.0	0.30			
1 換気量						3.0	0.33			
2 自然換気性能		0.129 > 0.066(1/15)				5.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮						1.0	0.33			
4.3 運用管理						4.0	0.20			
1 CO ₂ の監視						3.0	0.50			
2 喫煙の制御		敷地内禁煙				5.0	0.50			
Q2 サービス性能							0.30			2.9
1 機能性						2.5	0.40			2.5
1.1 機能性・使いやすさ						2.3	0.40			
1 広さ・収納性						1.0	0.33			
2 高度情報通信設備対応						3.0	0.33			
3 バリアフリー計画						3.0	0.33			
1.2 心理性・快適性						2.3	0.30			
1 広さ感・景観		事務所 天井高:2.7m				4.0	0.33			
2 リフレッシュスペース						2.0	0.33			
3 内装計画						1.0	0.33			
1.3 維持管理						3.0	0.30			
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50			
2 耐用性・信頼性						3.1	0.30			3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数						3.6	0.30			
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		ガルバリウム鋼板(25年)				4.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給湯・給水・排水:B				5.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20			
2.4 信頼性						2.6	0.20			
1 空調・換気設備						3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備						2.0	0.20			
3 電気設備						3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20			
5 通信・情報設備						2.0	0.20			

3 対応性・更新性			3.4	0.30	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高:6.3m	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	0.09<0.1	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			2.6	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		1.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-	-	-	
2 自然エネルギー利用			3.0	0.13	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.66	4.4	0.63	-	-	4.4
4 効率的運用			2.5	0.25	-	-	2.5
集合住宅以外の評価			2.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60	-	-	2.8
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		・躯体と仕上げ材が容易に分別可能 ・内装材と設備が錯綜せず取り外し可能 ・OAフロア	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	グラスウール	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2 83%	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの過半を満たす 広告物照明なし	5.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 JAやつしろ ミニマト選果施設

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		67
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				71.7	0.40	28.68
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	0.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.4	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				62.5	0.20	12.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				52.5	0.20	10.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				75	0.20	15.00
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.6	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

$$\text{総合評価点} = (\text{各重点事項の評価点} \times \text{各重点事項の重み係数}) \text{の総和}$$

※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

$$\text{評価点} = (\text{各重点項目のスコア} \times \text{各重点項目の重み係数}) \text{の総和} \times (5/4) \times 20$$

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4)×20: スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数